

SSKU

秋
2019年度

お元気ですか?
イリアンソンス
です。

PAGE 02

理事長の散歩道

PAGE 03

特集「私らしい生活

～もう一つの居場所～」

PAGE 6

活動報告

PAGE 07

職員の一言「ルー

『仕事で大事にしていること』



理事長の散歩道②



社会福祉法人 イリアンソス

理事長 磯部 光孝

今年も暑かった夏の思い出

年々夏の暑さが増してきています。体調いかがでしょうか？わたしは、この時期になると思い出す事件があります。それは、1985年8月12日午後6時56分に起きた「日本航空123便墜落事故」です。まだ27歳でしたわたしは、東久留米市で「障害児(者)」と共に生きる地域づくり「このみ」を立ち上げたばかりでした。まあ、仕事というよりもボランティア的な活動が多い時期でした。この日も1泊2日で障害をもつ子どもの家族のみなさんと伊豆旅行に出かけていました。子どもたちと一緒に白浜海岸で思いっきり遊び、旅館でのんびり過ごしていると、テレビでジャンボ機が行方不明で伊豆の上空で機影がレーダーから消えたと報道していました。ああ、ちよどここの上空を飛んでいるのかなあとな不安ながら夜空を眺めていた自分をよく思い出します。いまでも、単独の航空機の事故としては最大のものでした。

全国大会 くまもとでの出会い

2016年10月にきょうされんでは毎年全国

大会があるのですが、この年は震災後の復興中の熊本県で行われました。その時の実行委員長であるノンフィクション作家の柳田邦夫氏のインタビューで、「日本航空123便墜落事故」の話に再び出会いました。柳田氏は、今の社会情勢の中での新たな動きとして「これまでさまざまな事故や災害などで被害を受けた人たちに新たな動きが生まれているんです」と話され、自身が公害や災害だけでなく、事故についてもいろいろと関わってきた話をされました。「：日航ジャンボ機墜落事故で520人が群馬県の御巣鷹山で亡くなりました。2005年のJR 福知山線脱線事故で107人がなくなり、562人が重軽傷を負うという大惨事」そして、「この数年前から御巣鷹山登山に墜落事故に関係ない人たちが登山しているのです。それは、命の問題をしっかりと受け止めるためやわが子に命の尊さを伝えるための登山です」と。さらに、「負の体験をしたさまざまな被害者たちがゆるやかなつながりを持つことによって、悲しみを社会変革のプラスのエネルギーに転じていこうとする新しい社会文化」を生み出していると話されていました。

今回も千葉で台風の被害が起きています。そこでもみなさんが被害に会っています。これまでも事故

や災害で多くの方が被災しています。マスコミは、「いままで経験したことのない」といった報道とともに、自分たちで自分たちを守らなければといった自己責任を前面に出しています。しかし、個人ではどうしようもない災害や事故が続いています。改めて、国の災害、事故に対する姿勢を注視していく必要があると感じます。

今回、この記事を書くにあたって、先日、群馬県の御巣鷹山に登りました。雨の中でしたので、わたし一人での慰霊登山でした。山の南斜面に航空機の座席ごとに並んでいるように、年齢も1歳から60歳くらいまでの亡くなられた方々のお墓が立ち並んでいました。現地に来ることによって、この事故の凄さ、痛ましさを実感できました。柳田氏もこうした悲しい出来ことを忘れずにいることが大切と話していました。あれから3年、事故から34年が経ちましたが、まず、慰霊登山ができてよかったです。と思っています。



「私らしい生活をもつ」の居場所



法人の事業所を利用して
いる方々のもう一つの場所
での様子を覗いてみました。
それぞれで見せる顔の違
いがあります。ご本人たち
は、少し照れくさい？知ら
れたくない？かもしれませ
んが紹介してくれました。

柴田やぐらつかの好きなこと

さくらさんは、イリアン
ソスの「このみ」を利用し
て夕方時間を過ごしてい
ます。

日中は同じ市内の作業所
「まあぶる」で仕事をして
います。仕事の内容として
は、広報配りや清掃活動を
おこなっているそうです。

さくらさんは、まあぶる
に就職をする以前からこの
みを利用しています。昔か
ら利用していることも、彼
女の安心にもなっているの
ではないでしょうか。

このみの利用状況として

は、毎週金曜日に仕事
が終わると歩いてこ
のみにきています。

活動内容としては、散歩
をしたり室内で折り紙をし
たりとゆつくりとしたペー
スで過ごしています。

人とおしゃべりをするの
もとても好きで仕事のこと
などを楽しく教えてくれま
す。

午後6時頃になると、近
くの「さいわい福祉センタ
ー」で行われている「リズ
ム体操」に参加します。1
時間30分ほど大好きな音
楽に合わせて踊って汗を流
します。

さくらさんに好きな曲を
聞いてみたら「ハム」とい



う振付の曲が好きと言っ
ていました。

お話をしているだけで笑
顔が溢れるさくらさん。仕
事の時間と余暇の時間と充
実しているのが伝わります。
それぞれの場所での顔が
輝いていて、どのさくらさ
んも彼女らしいと感じま
した。



小林祐一さんが安心して暮らせる場所

祐一さんは、イリアンソスの「のぞみの家」を利用しています。のぞみの家では、月々金の10時〜16時まで活動しています。

そんな祐一さんの余暇の時間は、「むくむく」を利用しています。今回は、むくむくの職員の方にお話を聞きました。

「むくむく」は、障害を持った人が当たり前前に生きることが出来る「生活の場」

を広げ、地域の人たちと自然に交流しながら、共に生きていける社会を目指し

て平成16年から活動を始めています。

イリアンソスの各施設を利用されているみなさんとの関わりでは

「移動支援事業」「日中

一時支援事業」「行動援護事業」を利用して頂き余暇活動の支援や、緊急時の支援を行っています。

祐一さんの様子

車が発車するとさっそく体を揺らす祐一さん。時に顔をスタッフに寄せてくる時もあります。そんな時は今日1日仕事を頑張った労いのことばとともに祐一さんの好きなことばや歌を返します。

小金井公園までドライブ



したり、むくむくスペースでゆっくりしたりしながら過ごしています。調子のよい時はス

ーパー（BIG-A）で一緒にお茶を買うときもあります。店内の自動アナウンスに笑ったり、お茶を買えた後はとても良い表情をしたりしていて、車内で飲む1杯も余計に美味しいのかもしれません。

小金井公園ではバス停に停まるバスや行き交う車が見物できるお気に入りのベンチがあり、手をたたいて見物しています。

大切にしていること

体調の変化を気遣いながら、週の真ん中で気分転換が出来るように接しています。同じ立場にたって気持ちや考えを伝えあい、安心できるような関係を築くことを目指しています。

祐一さんにとっての余暇活動とは

通所施設でも寮でもご家庭でもない地域の第三者の立場で支援に入っています。人との関わりや過ごせる場所の広がりを通して社会的自立の一助に

なればと考えるています。





狗飼哲朗さんの楽しみ

イリアンソスの「なかまの家」で仕事をしている狗飼さん。責任感が強く、仲間想いの方です。休みの日に陶芸を習っているというのを聞いたことがあったので、お話を伺いました。少し緊張しながら、でも嬉し

そうに話してくれました。

福：始めたキツカケは何ですか？

狗：陶芸がいいなあと思っ

た。
福：どれくらい通っていますか？

狗：約13〜4年位・・・(ご本人と昔から勤務している

職員に聞いてみました)
福：毎月何回、何曜日にやっていますか？

狗：先生と自分の都合に合わせてやっています、だいた

い1カ月に1回、土曜日の午前中3時間やります。

福：何で通っていますか？

狗：行きはバスで行き、帰りは歩いて帰ります。

福：今までの作品で大物は

何ですか？

狗：生け花の器、お持ち入れて食べるお椀。

福：今までの作品で気に入る作品は何ですか？

狗：お母さんにあげた緑のマグカップ。

福：陶芸の楽しい所は何ですか？

狗：先生と話たり、集中できるところ。

福：陶芸の大変な所は何ですか？

狗：乗せるのが大変、緊張する。

福：最後にこれから作りたい物は何ですか？

狗：お母さんにあげるものを作りたい。

以上でインタビューを終わ

ります。

なかまの家でも陶芸の間はありますが、狗飼さんはなかまの家でも作品をいくつも作って楽しんでいきます。

何を作ろうか考えたり、作品になるまでスタッフと相談したり、見ている楽しそうに作っているなあと思います。

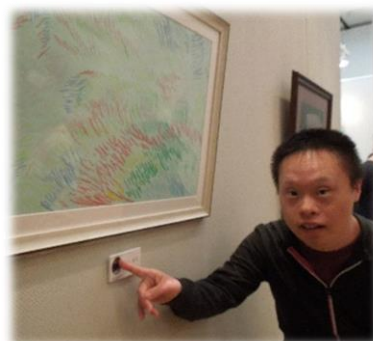
これからも狗飼さんらしい充実した生活、もう1つの居場所を作ってもらいたいと思います。



法人研修会

昨今問題となつてきている障害者虐待の事件。私たち職員も他人事とは思えません。法人では、今年より発足した虐待防止委員会を中心に虐待防止に取り組んでいます。

今回の研修では、優生保護法問題も担当している、関哉直人先生に来ていただき、虐待の起こる経緯を事例を交えてお話しいただきました。



11月に作品展と販売会を行います。創作活動にもより力が入っています。皆様のご来場をお待ちしております。

【作品展】

日時…11月18日(月)～

19日(火)

場所…東久留米市役所1階
市民プラザ

【販売会】

日時…11月28～29日
場所…マルフジ東久留米店

活動センターかなえ

医療的ケア研修

7月にのぞみの家にて医療的ケアの研修が行われました。法人全体の職員が集まり、年に数回、嘱託医を招いて研修を行っています。喀痰吸引はあくまで医療行為ではありますが、そのリスクも含め研修で学んだ知識を実践していけるようにしていきたいと思えます。今後、向上心を忘れずに日々学んでいきたいですね。



カフェてんのうどんがテレビ東京の「アド街ック天国・東久留米」で紹介されました。柳久保小麦を使用した手打ちうどんが昼前には完売してしまいうほど大賑わいの日々が続きました。

現在、活動センターかなえの利用者さんが、お冷を出したり食事を運んだり、お店の準備や掃除をしたりと活躍しています。今後もカフェの仕事を通して自分の力を発揮し、地域とつながること場となることを目指していきます。

Cafeてん



なかまの家 (生活介護)

大河原敏和 (15年目)

僕が大切にしていることは、①利用者さんが言うことに否定しないように気を付けています。例えば、作業に参加することが苦手な利用者さんを支援する時は、まず話を聞くようにしています。話を聞いてから、こちらの思いを伝えるようにしています。②見守ることを大切にしています。ついついあれもこれもと支援したくなってしまいますが、それは利用者さんにとっては、余計なお世話なのかもしれないと考えながら、まずは見守ることを大切にしている

います。③とにかく利用者の方と接する時は明るく接するように心がけています。時には、冗談なども言って笑わせたり、しらけてしまったり…笑特別なことはしてなくて、利用者の方と一緒に作業(仕事)をする、必要なことは支援(介助)する、楽しい時間は楽しく過ごす、当たり前のことをしていただけですが、それがこの仕事だと思って日々楽しく過ごしています。これからも楽しく過ごしていきたいです。

職員のひまわりとこころ

vol 3

前回、職員からのリレーです。
生活介護事業所「なかまの家」の大河原さん、
生活介護事業所「活動センターかなえ」の高橋さんです。



活動センターかなえ (生活介護)

高橋友紀 (4年目)

私が日々、心がけていることは3つあります。まず、一つ目は「利用者さんと気持ちの通い合える関係でありたい」ということです。日々、一緒に過ごしている中で信頼関係は特に大事にしています。利用者さんそれぞれ、障がいや性格によって一人ひとりコミュニケーションの取り方は異なりますが関わられるタイミングがあれば、ちよつとしたことでも声を掛け、お互い顔を合わせています。個性豊かな利用者さんと共に笑って仕事することは毎日とても面白いです。二つ目は、恩師から教えられた「相手の能力を奪わ

ない」ということです。これは、支援し過ぎないという意味です。支援し過ぎることは、言い換えれば、相手の能力を奪うことと同じことなのだ、と衝撃的に学んだことです。できないことへの支援をして、できることはじっくりと待つ、という姿勢を常に大切にしています。最後に三つ目は「自分らしく仕事することです。今ある自分の能力を精一杯発揮し、失敗しながらも成長させてもらっています。力不足の面が多々ありますが、それを受け容れ、カバーしてくれる同僚職員たちにもっとも感謝しています。

ご寄付をいただきました(9月末まで)
法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 板垣順子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667

～職員をつぶやき～

子どもの頃、学校は私らしくいられるもうひとつの居場所だった。家では、母に甘えて手伝いもせず、ぐーたらしていた為、外面がいいんだから!と良く叱られた。今は思う。外面がいいは最高の誉め言葉だ。社会性があると言う事でしょう(笑) 疋田史江

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室
Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵
中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子
ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス  定価100円

表紙の写真

法人の入所と成人を祝う会の様子です。
おめでとうございます。